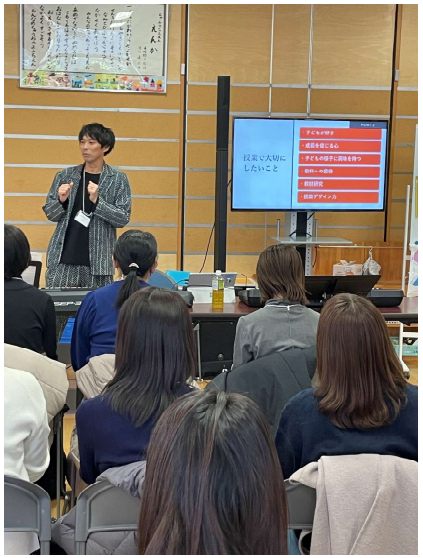
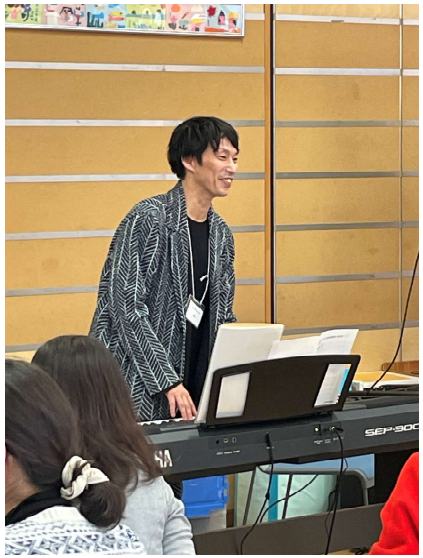
音楽教育推進協議会
おんすいきょう

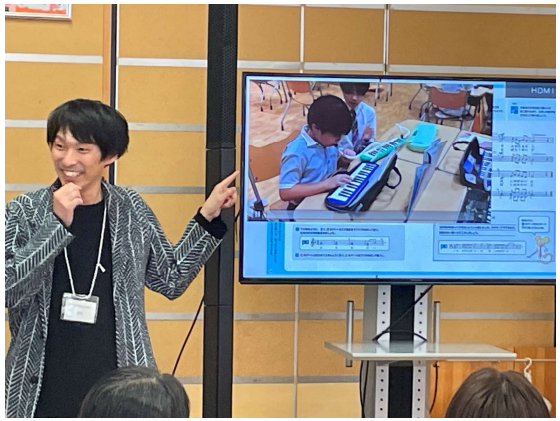
令和6年度
「後期・音楽科特別講座」
東京会場
講座レポート

令和7年1月11日（土） 中央区立中央小学校
主催：音楽教育推進協議会
協賛：株式会社ヤマハミュージックジャパン

選択講座1　<【わたしの授業】子どもが楽しく学ぶ45分の授業デザインとは>
講師：岩井　智宏先生







岩井先生は終始笑顔で、言葉の端々に子どもたちと音楽に対する愛情が溢れる素敵な講習会でした。それを聴いている受講者も笑顔で会場が笑顔と音楽にあふれていました。

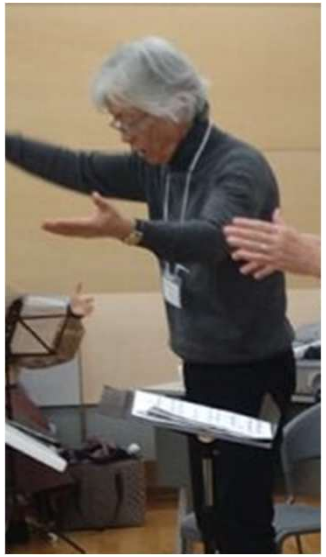
講座は、45分の授業デザインの大前提としてお話され、授業で大切にしたいことからスタートしました。①子どもが好き→②成長を信じる心→③子どもの様子に興味を持つ→④教科への愛情→⑤教材研究→⑥授業デザイン。どれも大切な内容で音楽に限らず、教師としての生き方、在り方であると思いました。
特に子どもに係る①②③は基本でありながら最も大事な資質であると感じました。

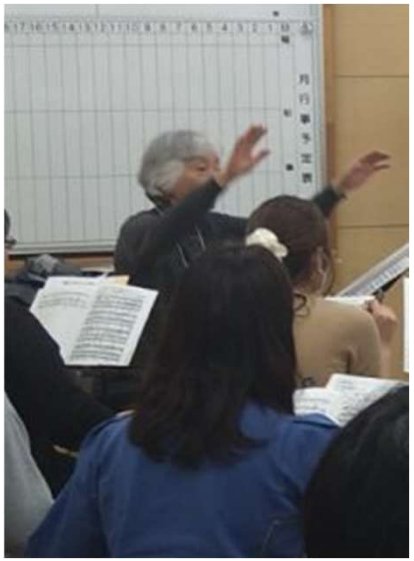
45分の授業デザインはそれぞれが実践に裏打ちされた、子どもの意識を基に考えられたデザインで、100分間通して岩井先生の言葉を一言も聞き逃さないよう受講生が全集中しているのが印象的でした。音楽への愛情と子どもへの愛情があふれた100分間でした。

「子どもは必ず成長してくれる。だからこそ一つ一つの授業時間はもう二度とこないという気持ちをもって全力を注ぎたい。」

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座２　＜子どもの表現を引き出す指揮の工夫＞～卒業式に向けて～
講師：田久保　裕一先生





指揮というのは誰にでもできそうで難しい？映画やドラマでマエストロ役の俳優の演技に違和感を抱く方も多いのではないでしょうか。指揮は授業や音楽会・学校行事で子どもたちの音楽表現を引き出す重要な教師の動き、その基本的な技術と心構えを学ぶ講座。講師は田久保裕一先生。

講座ではまず指揮の動きではなく、楽譜の分析（アナリーゼ）の重要性が話され「曲の魅力を引き出すこと」の教材研究の大切さを認識しました。
その後、楽曲を使って指揮の実技へと移りました。田久保先生独特の「おつまみ・おにぎり・キラキラ光線・視線外し・花咲か爺さん・・」といった分かりやすいことばと、それぞれの受講生の指揮の癖を瞬時に見抜き、そのポイントが指導されると、楽譜の休符やフレーズを意識した指揮となり、それらが子どもたちの表現を引き出す重要な動きとなることを全員で体感しました。
前で指揮をするそれぞれの先生方がとてもいい表情だったことが印象的な講座でした。

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座3　＜豊かな心を育む合唱授業の実践＞
講師：山崎　朋子先生

作曲家である山崎先生の作品は全国の小中学校で多く歌われています。特別講座初めての山崎先生の講座は、始まる前から受講者の期待感が感じられました。冒頭は、合唱指導にふさわしい和やかな雰囲気をつくるかのように、先生からの受講者への質問から始まり、小中学校の違いや、他県の状況、そして、自分の公立中学校時代のことが話されました。山崎先生の公立中学校時代の話しでは、受講者が日常感じている同じ悩みを聴くことができ、先生と受講者との距離が徐々に近づいてきました。

雰囲気ができたところで、先生の作品である「大切なもの」を始めとした計6曲の合唱曲を教材に合唱授業が始まりました。曲が作られた背景を交えながら、曲に対する自分の思いや意図を分かりやすく説明され、先生と受講者が歌いながら講座が進められました。時々先生の経験した話しを入れることで、さらに受講者と一体となった雰囲気が生まれ、心地良い時間が流れていきました。

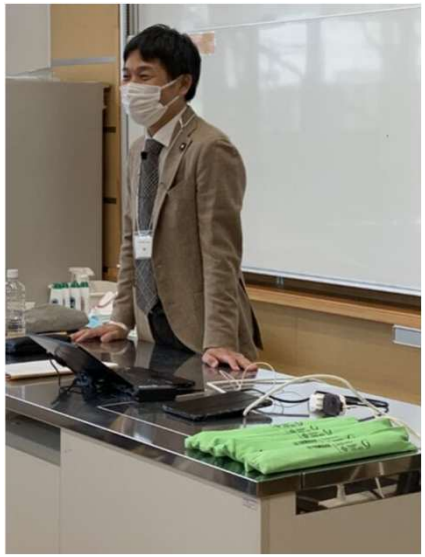
今日学んだことは、すぐに明日の授業から実践できることばかりであり、今までとは違った視点で指導できることもあったのではないでしょうか。今日学んだことを、早く子どもたちに伝えたいと思える講座でした。100分間があっという間であり、とても充実した時間になりました。

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座4　<【わたしの授業】役割をもとに音楽を作る（音楽づくり）>

～グループ活動・ペア活動のポイントも踏まえながら～

講師：平野　次郎先生



講座スタートは、平野先生の3学期初日の授業実践鑑賞。6年生たちが新曲の前奏を聴き、感じたままを実に生き生きと身体表現する姿に講座への期待が膨らみました。

つい言ってしまう「どんな感じ？」は児童に対し限定的である、個人によって「ことば、ワークシート、身体表現」等表現する方法が違って良いとご指摘がありました。また「1年生の音楽づくり実践」では、グループ学習で1人1音それぞれ役割を考え、音の長さ、順番、既成にとらわれない音の出し方など、実に様々な工夫を楽しそうに試していました。
こうした活動一つ一つの価値付けが、児童の意欲・感性・技能の成長を担っていると感じました。

「音楽専科は同じ学年を何クラスも受け持つが、クラスそれぞれの実態があり、その実態によって授業を変えていく必要がある」、「クラスの中でも音楽に苦手意識をもつ児童がどう自ら学ぼうと参加し、取り組んでいくか」等、明日への授業実践に向けた沢山のヒントをこの講座でいただきました。
前半は、言葉を順番に言いながらでリズム、速さを感じて立つ、座る等誰でも抵抗なくできる音楽づくりの基本を学び、後半は鍵盤ハーモニカを使い本日の講座内容を活かしたグループでの音楽づくりを行っていました。

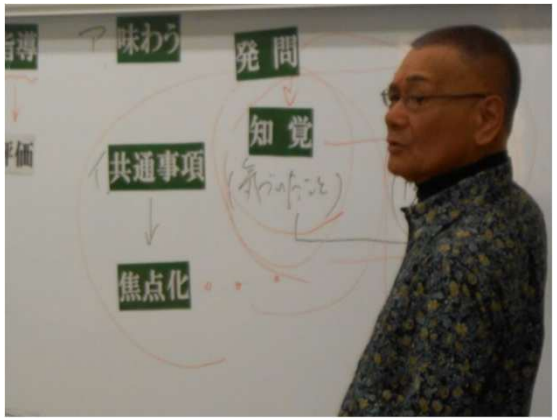
「グループで役割分担を考え試す→振り返り→試す→振り返り」が大切であること、技能を求めるよりもまずは、音に向き合うことが重要であると学びました。

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座５　＜児童・生徒が最後まで聴きたくなる鑑賞授業の事例＞

～教科書に新しく掲載された鑑賞教材を使って模擬授業形式で～

講師：粟飯原　喜男先生



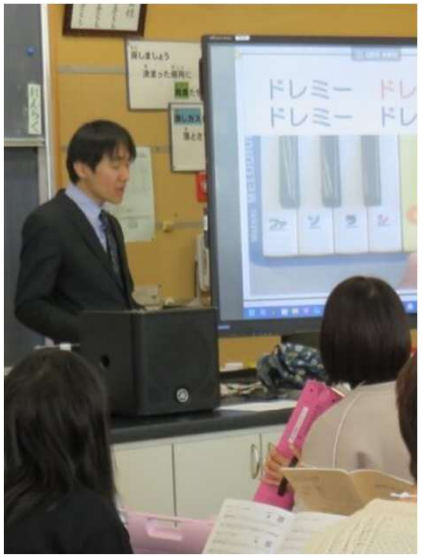
粟飯原先生のユーモアあふれる言葉に、受講生が常に笑みを浮かべ、100分間の講座は、あっという間に終わっていました。

粟飯原先生の「音楽をよく聴く耳を育てたい」という強い思いが、受講生に伝わったと思います。そのためにも、「知覚」の部分を丁寧に指導することが大切であることを学びました。
・発問が一番大切である。（共通事項を一つに絞ること）
・子供の発言で「感受」に流れてはいけない。
粟飯原先生が実践されている授業を、受講生が生徒になり模擬授業形式で紹介してくださいました。

粟飯原先生は、講座の最初に、「私たちは、音楽鑑賞を行うのではなく、音楽鑑賞指導を行わなければならない。」ということをおっしゃいました。きっと、受講生は、この言葉の意味が講座を通して、理解できたことと思います。
受講生の皆様が、子どもたちの前で、自信もって音楽鑑賞指導をされていることを期待します。

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座6　＜低学年だけで終わりにしない！私の鍵ハモ、授業活用法 ＞
講師：松長　誠先生



子どもたちが初めて手にする旋律楽器「鍵盤ハーモニカ」。松長先生との出会いで、両手を使った先生の熱い演奏をお聴きし、これまで鍵盤ハーモニカに対して抱いていたイメージがガラリと変わってしまいました。

鍵盤ハーモニカの長所と可能性を最大限に生かした楽しい常時活動や音楽づくりの活動をたくさん紹介していただき、松長先生のやさしく丁寧なご指導で、受講者は低学年だけで終わらせない鍵盤ハーモニカの楽しさや可能性について体験を通して学びました。

最後は、授業づくりのための曲から演奏会向けの合奏教材まで、松長先生の自作教材の初見大会でした。合唱教材「どんなときも歌を忘れない」も紹介していただきました。

鍵盤ハーモニカ愛と音楽愛に満ちた松長先生の講座を通して、子どもたちが大人になっても生活の中に音楽や楽器が身近にあるよう、音楽を愛好することの裾野を広げていく「教師の役割」にも気付くことができました。

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座7　＜教育機器・ICT機器の活用で広げよう音楽科活動の幅＞
講師：吉森　祐也先生

音楽の授業でもICT機器を上手に使いこなし、児童の学習意欲を高めたいと思う反面、機器の操作に苦手意識をもたれている先生方も多いかと思います。「苦手なので今回参加しました。」とおっしゃる先生もいらっしゃいました。そんな先生方に吉森先生からは優しく実践的な使い方を色々と教えていただきました。

まず導入に、簡単なリズム譜を視覚的にも分かりやく次々と提示し、全ての児童にとって無理のない資料の提示をされました。機器は操作が目的になってはダメで、あくまで学びの手助けとなるようにと助言。デジタル教材に合わせてソプラノリコーダーを演奏したり、演奏を採点したりしました。教育現場で活用できる音楽Webアプリケーションを紹介後、様々な演奏情報は接続のMIDI機器によって音質や表現力が違ってくることを感じ取りました。また、ボーカロイド教育版を使ってのオリジナルの曲づくり。自己紹介曲をひとり一人が挑戦しました。

ICTの活用は、先生のアシスト、子どもの興味や集中力の向上、学びのサポート等に効果的だと感じた講座となりました。

音楽教育推進協議会 常任理事

全体講座 【技術と表現と】　　講師：富澤　裕先生

令和6年度・後期『音楽科特別講座』において全体講座を担当させていただきました。7つの選択講座において授業づくりから指揮法、器楽の実技、ICTの活用まで専門性の高いワークショップを受講されお疲れであろう先生方に最後は思い切り歌っていただいて存分に楽しんでいただこうというコーナーであると認識し、歌いやすく、かつ学びのある曲をと考えて山崎朋子先生の「絆」（同声2部）とミマスさんの「ふたつの海」（混声3部）を選びました。この日の選択講座において山崎先生による合唱指導の講座がありましたので渡りに船とばかりに聴講させていただき先生ご自身の自作への、また合唱への想いを伺い自分のコーナーの指針にできればと思っていたのですが・・。先生の音楽への想いを伺ううちに「作曲者が作り上げた音楽の世界、それを語ることは作者自身にしかできない。それならば私は、私自身の眼で楽譜と向き合い、理解し、私自身の言葉で子どもたちに、先生方に語りかけるべきだ」と腹を決め、富澤の音楽と言葉で山崎先生とミマスさんの作品を先生方にお届けしました。2曲を題材として、歌えるようになった曲をどのように高めていくかを発声、発音、横隔膜の使いかた、歌詞への気持ちの込め方、ハーモニーまでを学習指導要領の言う三本柱に沿いながら、まぁ欲張りだこと！だが先生方の歌声がぐんぐん膨らみ、体育館から溢れ出すような豊かな響きとなったとき、きっと先生方に歌うことの楽しさを味わっていただけたのではないかと感じていました。歌うことはそれだけでも楽しいですが、上手くなったことが実感できたとき楽しさは何倍にもなるでしょう。それを子どもたちに味わってほしい。そのためには上手くなろうとする意思をもって練習と向き合うこと。それは三本柱の一つ「学びに向かう力」であろうと結論づけて講座を閉じました。
先生方がご自身の眼で楽譜と向き合い、理解し、ご自身の言葉で子どもたちに語りかけていただき、音楽室に成長の喜びの歌声が響き渡ってくれることを心より祈念しております。

富澤　裕